

授業科目 口腔外科学

【担当教員名】 今井・大橋	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<概要>  
臨床歯科医学に続き、主として口腔・顎・顔面に発生する疾患の病態・診断・治療・予後・予防・鑑別診断などについて概説する。特に言語障害との関連が強い口腔疾患の診断と治療について講義する。小児科学(小児口腔科学)、構音障害II(器質)、嚥下・摂食障害の講義とは関連が深い。

<学習目標>  
言語障害には口腔の形態・機能の異常と関連するものが多い。口腔・歯・歯周組織に発生する疾患について概略を知り、必要な症例にあっては歯科医師と緊密な連携が取れるように十分な知識を養成する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	顔面・頸部の疾患 軟部組織、大唾液腺、神経系、心因性、リンパ系		講義
2	口腔軟組織の疾患 先天異常、発育異常、外傷、口腔粘膜疾患、感染症、嚢胞、腫瘍		講義
3	顎と顎関節の疾患 先天異常、発育異常、外傷、感染症、嚢胞、腫瘍、顎関節症、顎関節強直症		講義
4	口腔・顎・顔面の機能障害の診断と治療 1 言語機能の障害の診断、咀嚼機能の障害の診断		講義
5	口腔・顎・顔面の機能障害の診断と治療 2 言語機能の障害の治療、咀嚼機能の障害の治療、歯科を中心とした総合治療		講義
6	口腔・顎・顔面の機能障害の診断と治療 3 摂食・嚥下障害の診断		講義
7	口腔・顎・顔面の機能障害の診断と治療 4 摂食・嚥下障害の治療		講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書				
参考書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学	道 健一編	医歯薬出版	2000年発行 4000円
	最新口腔外科学：第4版	榎本昭二他編	医歯薬出版	1999年発行 21000円
その他の資料	プリントを配布する			

【評価方法】 出席状況と定期試験から評価する	【履修上の留意点】 前半に講義される臨床歯科医学と合わせて完結する
---------------------------	--------------------------------------